

私の妻の父親は長く実業界にあつて経済についても、そこそこ明るい人であつた。

ある日、ある時、どうしてそんなことが話題になつたのか覚えていないけれど、茶の間で、

「金利を二倍にしたかつたら……」

と呟く。私はこの方面の知識にうとく、義父ならばなにかすばらしい知恵があるのかもしれないと、さりげなく、

「はい？」

と聞き耳を立てていると、義父はひとくち茶をすすり、

「元金を二倍にすればいい」

なーんだ、そんなこと、当たり前だろ、と思つたが、しばらくたつて、

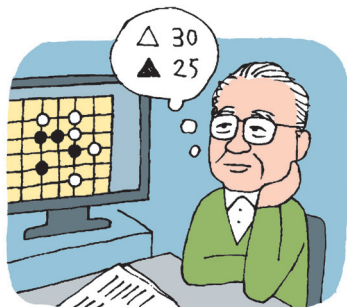
——なるほど、これが本当なんだ——

と悟つた。銀行その他の金融機関が、ほぼ一定の金利で（配当なども同じだが）ビジネスを進めている。それが世の中の水準であり、それを超えて利益を得ようとすれば、どこかに無理がある。ひどければ詐欺や犯罪のおそれさえある。「配当が二倍になりますよ」なんて、おいしい話には気をつけねばならない。義父の言葉は身に染みだ。

元来、私はケインズより二宮金次郎に与するたちなので……不確かな知識で申しわけないけれど、消費が経済を活性化するよりま

## 金利を二倍にしたかつたら

阿刀田 高



絵・江口修平

ず貯蓄だね」と考えるたちだから、義父の教えに従いやすかつた。それなりに消費を抑えて老齢となり、過日、老後資金に関して話題になつた二〇〇〇万円くらいはお金を残しているが、これは目下投資信託に委ね、毎朝、見るともなしに経済新聞のオープン基準価格欄を瞥見している。わずかなお金を委ねているだけだが、それでもその日その日で値上がりや値下がりがある。

私の委ねた銘柄に黒い三角が記されて値下がりにしている日は、もちろんつらい。

——えっ！ 二〇万円も損しているのか——

今日一日こつこつ原稿を書いて収入を得る努力がばからしくなる。逆に白い三角がついて値上がりしてる日には、

——おお、二五万円もうかつたのか——

うれしいけれど、これもやっぱり、

——これだけ得したんだから、仕事、やめておくかな——

原稿料で二五万円得るのは楽ではない。つい、つい怠けて朝からテレビの囲碁番組を見入つたりしてしまう。

お金はとても大切です。元金を増やせばいいんだ、と思ひながら実行はそれほど熱心ではなく、さほどの実績もない。

でも、ま、いいか。

あとうだ・たかし●作家。1935年、東京生まれ。早稲田大学文学部卒。国立国会図書館に勤務しながら執筆活動を続け、78年『冷蔵庫より愛をこめて』でデビュー。79年『来訪者』で日本推理作家協会賞、同年、短編集『ナポレオン狂』で直木賞。95年『新トロイア物語』で吉川英治文学賞。著書は多数。日本ペンクラブ会長、文化庁文化審議会会長、山梨県立図書館長などを歴任。2018年、文化功労者。

